

メイド服に関する研究

—ヴィクトリアン様式のメイド服の複製—

生原 由麻

〔指導教員：武庫川女子大学准教授 末弘 由佳理〕

1. 研究の背景と目的

現在の日本で「メイド」は多くの人々に認識され、その名は広く知られるようになった。メイド喫茶を中心として、ゲームやコミックス、アニメ、小説、テレビドラマなどのマスメディアの露出によって登場した。そこでメイドが着用する、または描かれている衣装はメイド服と呼ばれる¹⁾。メイド服と検索すると「エロ可愛い」「萌え」「コスプレ」といった表現がされている。スカート丈の短いデザインや胸元が広く開いて、強調されているもの、ボリュームのあるパフスリーブ、リボンやレースの装飾性に富んだものが多い印象を受ける。しかしながら、英国メイドが職場で着用していた本来の仕事着（メイド服）と現在の日本で広がるメイド服において、デザインやイメージの違いが生じているのではないかと考えた。

本研究では、日本のメイドカルチャーと英国メイドの歴史を調査する。さらに、19世紀英国に存在した下級使用人（ハウスメイド）と上級使用人（ハウスキーパー）が着用した制服の違い（素材・デザイン）を元に、複製することで、現在のコスプレ化したメイド服のデザインとの違いを明らかにすることを目的とする。

2. メイドとは

メイドとは、servantの女性形である maidservantの省略形であり、女性の召使いあるいは使用人を意味する²⁾。英国ヴィクトリア朝（1837-1901）に発展を遂げた職業であるメイドは「家事使用人」と呼ばれ、多くの英国女性が活躍していた。家事使用人とは、貧しい出自の人々が貴族や地主など上流階級の人々の上昇志向的な生活スタイルを維持するために、料理、洗濯、掃除などの家事を奉公する職業である³⁾。アルファベットや数字が認識できるくらいの少ない知識しかない貧しい女性たちにとって、仕事は限られており、他の仕事を選びようがなかった。しかしながら、メイドとして働くことは、身の安全を確保しながら、家事や礼儀作法を身につけることができたり、人の中には裕福な家に入り、出世し、高い社会のランクにつき有用な職業を手に入れるチャンスだととらえたり、献身的で頼もしいことで家族の一員のように信頼されたりする人々もいた。

3. 日本で販売されるメイド服

メイド服専門店キャンディーフルーツの通販で販売されるメイド服のWeeklyランキングの第1位と第2位を図1に挙げる。

キーワード：メイド服、ヴィクトリア朝、複製



(1) 第1位⁴⁾

(2) 第2位⁵⁾

図1 キャンディーフルーツWeekly ランキング

4. ヴィクトリア朝の使用人

4-1 ハウスメイド（図2）

ハウスメイドを雇わない屋敷は存在せず、家政代表のメイドである⁶⁾。主人が生活する場所にある装飾品や家財の掃除、手入れの作業を担った。給仕用の午後服は汚れ作業を行わず、主人やゲストと接する可能性があるため夏場は綿素材、冬場は羊毛やアルパカなどのウールの見た目が良い黒地のドレスと綿素材の白いエプロンを着用した⁷⁾。

4-2 ハウスキーパー（図3）

ハウスキーパーとは、大きな権限を与えられた女性使用人を監督する責任者である。監督下にある女性使用人たちの業務が適切に行われているかどうか、業務に無駄がないかを判断するためハウスキーパーもそれぞれの業務内容に精通する必要があった。黒や落ち着いた色のシルクドレスまたは白ブラウスを着用した。ふくらはぎが見えないスカート丈、首元は常に高い襟、長袖というスタイルであった⁷⁾。



図2 ロンドンの家女中²⁾



図3 ハウスキーパー⁷⁾

5. 制作

図 2, 3 の肖像画を元に、複製を行った。ハウスメイド着用服(図 4)のワンピースには毛 100% の 60 ウールギャバジンを使用し、付け衿、付けカフス、エプロンには綿 100% のブロード、綿 100% のレースを使用した。



図4 ハウスメイド完成作品

ハウスキーパー着用服(図 5)のブラウス、ギャザースカートには、絹 100% のシャンタンを使用した。



図5 ハウスキーパー完成作品

6. 結論

本研究では、日本のメイドカルチャーと英国メイドの歴史を調査し、19 世紀英国に存在した下級使用人(ハウスメイド)と上級使用人(ハウスキーパー)の着用服を複製することで、日本で販売されるメイド服との 4 点の違いが得られた。

1 つ目は、ワンピースおよびスカートの丈である。図 1 の日本で販売されるメイド服のスカート丈はミニスカートであ

るのに対し、図 4, 5 のヴィクトリアン様式のメイド服は、ふくらはぎの见えない、露出を抑えるためのロング丈である。

2 つ目は、袖である。図 1 はどちらも半袖パフスリーブであるが、屋敷内での作業のために、図 4 は長袖セットイン・スリーブ、図 5 は長袖パフスリーブである。

3 つ目は、首元である。図 1 は鎖骨が見えるスクエアネックで首が広く開いている。図 4 は丸首デザインのワンピースであるが、付け衿で首元が見えず、また図 5 ではスタンドカラーで衿高になっている。

4 つ目は、エプロンである。図 1 は大きめフリルのついたショート丈の装飾的なエプロンであるが、図 4 はレースの装飾がついているが、ロング丈のシンプルなデザインのエプロンである。

以上のように、日本で販売されるメイド服は首や腕、脚を露出することのエロさ、装飾的なデザインの可愛さ、萌え要素を含んだ服である。反対に、ヴィクトリアンメイド服は制服として位置づけられ、露出が少なく、ファッション性が求められない、ただ仕事を行うためだけに作られた服であるという違いが明らかになったと言える。しかし、使用されている生地の色は黒やグレーのダークカラーであること、半袖パフスリーブと長袖パフスリーブのように、日本のメイド服、ヴィクトリアンメイド服の共通点も見つけられた。このことから、19 世紀ヴィクトリア朝に着用された質素な黒のワンピース、ブラウス、白のエプロンがメイド服の原型となり、流行や嗜好に合わせ、発展したことで、現在の日本のメイド服が誕生したと考えられる。

参考文献

- 1) 久我真樹：日本のメイドカルチャー史 上, 星海社, 2017
- 2) パメラ・ホーン：ヴィクトリアン・サーヴァント, 英宝社, 2005
- 3) シャーン・エバンズ, 村上リコ訳：メイドと執事の文化誌, 原書房, 2012
- 4) CANDY FRUIT 太大人気 !! キャンフル渾身のメイド服☆ベルフィューメイド服 (グレー), <https://www.wisecart.ne.jp/candyfruit/7.1/1699> (2018/12/4)
- 5) CANDY FRUIT こだわりのディティールで大人気のニレコレッタメイド服 ブラック, <https://www.wisecart.ne.jp/candyfruit/7.1/0857/> (2018/12/4)
- 6) 久我真樹：英国メイドの世界, 講談社, 2010
- 7) 村上リコ：英国メイドの日常, 河出書房新社, 2011